

挑む!

京友禅職人

山元 桂子さん(34)

## ポップに染める 暮らし彩る

舞台衣装を専門に手がける山元染工場（京都市中京区）の京友禅職人。破れ格子、松の葉、チョウなど、伝統的な和柄をポップな色使いと大胆な配置であしらった着物は、多くの映画やテレビドラマを彩ってきた。

京友禅の魅力は、手仕事ならではの「甘さ」にあるとみる。布を染める際、工業製品なら規格外としてはねられる柄のかすれやにじみもあえて残す。「一つひとつ違うのが良さ。そこがめっちゃカワイイ!」



三重県出身。大学院での研究テーマは「日本の装飾文化」。みこし装飾から携帯電話をキラキラ飾る「デコ電」まで、派手好きな日本人の精神に迫った。

高校で美術部顧問の教員に独特な色彩感覚を褒められ、京都造形芸術大へ。現代アートにのめり込んだ。大学院時代は表現の幅を広げるため京友禅染の研修に初めて参加。自由な発想を形にできる楽しさに夢中となった。

昨年、染めものの新ブランド「ケイコロール」を本格始動させた。きっかけは、長女が通う保育園の卒園祝い作り。小学校でも使える巾着袋を染めた。娘の友達顔を思い浮かべながら染めたら、納得のいくものができた。手拭い、ポーチ、髪留め、おにぎりを含む袋。家族の笑い声が聞こえてきそうな商品がそろそろ。全国展開する和雑貨店での販売も4月に始まった。

「家族の暮らしを、もっと明るく楽しく彩る。そんな染めものを、これからも追い求めます」

文・川村貴大 写真・佐藤慈子

記者から

「楽しんで作るものには力がある」と語る姿が印象的だった。良い仕事の秘訣、ここにあり。